令和７年度 第１回 宇治市観光振興計画策定委員会　議事録

日時　令和７年７月１１日（月）　１０時～１２時
場所　うじ安心館３階　大会議室

出席者
宇治市観光振興計画策定委員会
委 員 長　坂上　英彦
副委員長　中村　藤吉
委　　員　藤原　直樹
　〃　　山仲　修矢
　〃　　淺井　栄一
　〃　　神居　文彰
　〃　　荒木　將旭
　〃　　佐脇　至
　〃　　若林　浩吉
　〃　　桑田　知恵子
　〃　　岸田　秀紀

事務局
産業観光部 部長　脇坂　英昭
産業観光部 副部長 前田　聖子
産業観光部 観光振興課 課長　杉本　隆之
産業観光部 観光振興課 副課長　北　久美子
産業観光部 観光振興課 観光企画係　係長　西井　利治
産業観光部 観光振興課 観光企画係　主任　永井　理帆
産業観光部 観光振興課 観光企画係　主事　田島　佳奈

資料
・令和７年度 第１回 宇治市観光振興計画策定委員会　次第
・宇治市観光振興計画策定委員会　委員名簿
・宇治市観光振興計画策定委員会設置要項
・宇治市観光振興計画策定委員会の会議の公開に関する要項
・前期アクションプランの総括　資料１
・宇治市観光動向調査について　資料２
・観光動向調査の結果から見える課題について　資料２別紙①
・中期アクションプランの方向性について　資料３
・ワーキンググループについて　資料３　別紙②
・中期アクションプラン策定スケジュール（案）　資料３　別紙③

１．開会

２．委員の委嘱

３．開会あいさつ

松村市長：

本日は、ご多忙の中、また酷暑の中、宇治市観光振興計画策定委員会にご出席賜りありがとうございます。現在の第２期観光振興計画は、令和５年４月に計画期間を 11 年間とし、「宇治のブランド力を未来へ織りなす」を基本理念として策定した計画である。

令和 7 年度までの前期アクションプランにおいては、コロナの影響や大河ドラマ、関西万博といった様々な出来事がある中で、宇治市としての観光をどうしていくのかについて取りまとめた。前期アクションプラン最終年となる本年は、今までの取組を踏まえ、全 11 年の計画において、今後、より具体的にどのような取組をしていくべきか、宇治市における観光振興の方向性について次の中期アクションプラン策定に際し、ご議論いただけると大変ありがたい。

この間の取組、状況を見ると、インバウンドが過去最高を記録し、大河ドラマ放映の影響もあり、大変多くの方に宇治市に訪れていただいている。とりわけ中宇治地域を中心とした地域では海外の方が大変多く来られている。一方で、昨年 10 月にはニンテンドーミュージアムのオープン、12 月には萬福寺の国宝指定など、中宇治だけではなく、様々な注目すべき地域があると考えている。宇治の様々な観光資源をどのように、より活かしていくのか、現在、取組を進めている宇治川や天ケ瀬ダムを中心とした「かわまちづくり」もその一つになると思うが、宇治全体のあちこちに散らばっているコンテンツを観光という切り口でどう光を当てていくのか、また日常生活の中で、市民や国内の来訪者が繰り返し訪れたくなるような癒しの空間をどのように創出していくのか、観光あるいは歴史など様々な視点があると思う。それらを計画にいかに盛り込むかは難しいところであるが、皆さまのご意見、若い方々に参加いただくワーキングでのご意見、それらを踏まえながら、年度内にしっかりとまとめてまいりたい。

委員各位においてはそれぞれの立場で、それぞれの忌憚のないご意見を賜りたい。その中で、宇治市として良い計画が作り上げられていくと考えているので、屈託の無いご意見をいただくことをお願い申し上げ、開会に当たってのご挨拶とさせていただく。

４．委員の紹介

５．委員長互選及び副委員長指名

６．委員長あいさつ

７．報告

・前期アクションプランの総括

事務局より資料１について説明

委員長：
事務局より説明のあったこれまでの経過についてご質問等があればお願いしたい。

委員：
「目標には達していないが変化なし」の「源氏物語関係」は、源氏物語は文学・物語であるが、その中での目標に達していないというのは、源氏物語関係の施設に行っていないということなのか。それともまた別の理由があるのか。

事務局：
源氏物語ミュージアムに行っている、行っていないだけではなく源氏物語関係で、その他宇治市内にある宇治十帖の古跡などの満足度を総合して表示している。

委員：
お土産については、宇治の産業であるお茶等も含まれているのか。

事務局：
日本人の観光客動向調査の中の満足度の調べであるが、38 ページのQ18 で「とても満足」と「満足」の合計を満足度と捉えて表記している。源氏物語関係と括っているが、源氏物語関係の施設にお越しいただいた方が、どのくらい満足されたのかということを集計したものになる。お土産については、抹茶等も含めた満足度ということで整理しているところである。

委員：
詳細な分析が必要となるかと思うのでよろしくお願いしたい。

委員長：
実数ではなく、あくまでアンケートの感覚的な評価の割合となるので、実数との照らし合わせも今後発生する可能性もある。

委員：
調査結果について、日本人動向調査と外国人動向調査をいただいているが、資料 1 は両方の結果を集計したものとして理解してよろしいか。

事務局：
こちらは日本人だけの数字で整理させていただいているものである。

委員：

お土産など近畿圏からお越しの方と、遠方からお越しの方とでは持ち帰るものが異なることがある。それを踏まえどう戦略を立てるのかということも含めて、詳細にデータを分析していただきたい。

事務局：
今後クロス集計をしながら分析を進めていく。

８．協議

・宇治市観光動向調査について

事務局より資料２ 資料２別紙①について説明

委員長：
事前に委員の皆様からご意見をいただいているところも含めて事務局より説明があった。改めて、動向調査についてご質問等があればお願いしたい。

委員：
外国人のアンケート結果を見て、明らかに宇治市に訪れる外国人観光客のプレミアム化が進んでいる。アジア団体客から欧米豪の個人旅行者になって、消費単価が増加していることが明らかであると思われる。特に、外国人アンケートでは消費価格帯ということで金額を区切っているが、最大の金額の最上位置が最も大きくなっており、上限額がわからない状態になっている。今後調査するのであれば、１～３万円、３～５万円、５万円以上といったより多くの価格帯でどれくらい使っているのか。仮に、５万円使っている観光客は何に使っているのかといったような分析が必要である。宇治市を初めて訪れる外国人が 85.1%と多かったが、実際に日本に訪れる外国人観光客は 2025 年１～４月で 25%増えている。ただ、この多くは韓国や中国といった中華圏で 60%を占めることが多い。宇治市だけを見てみると、アジアと欧米の割合がほぼ半分ずつくらいで、すなわち欧米豪の観光客が多い。それも一人旅や女性観光客が多いという特徴があることから、こういう対象に対してよりアプローチをしていくようなことが求められる。欧米から来られた一人旅や女性観光客に対して、YouTube などの動画による情報発信が必要である。今は、本などで調べるのではなくインターネットや動画で観光プランを作って来られることが多い。そういう旅前に関する情報提供と、また来日してからはほとんどの方がＪＲや近鉄などの公共交通機関を利用していることから、旅中で外国人観光客が旅行しやすいような環境を整えることが大事である。
７月３日付の日本経済新聞に宇治の抹茶が海外転売の影という記事があった。実際に 30ｇ１万円で全てなくなっている、海外の通販サイトで３倍の値段で販売されているということであったので、可能であるならば正規の店舗からニーズに合わせて提供できるのであれば転売に対し何らかの対応をしていく必要があるのではないか。

委員長：
インバウンドの方たちの所得が上がっていることや、ドル高になっていることが、おそ

らく購買意欲が日本人とは真逆の方向になっているのではないか。外国人へのアンケートもそれに合わせて、今後見直しが必要なのではないかといったご意見であった。また消費の場面で、これらを踏まえて変化が起きてくることを想定した戦略が必要ではとのご意見だ。
他にいかがか。

委員：
２点質問がある。外国人観光客についての資料２別紙①の宇治市を訪れるのが初めてという回答では 85.1%であるが、初めて訪れる理由やモチベーションは何なのかを詳細に知りたいところである。宇治市のお茶目当てで訪れるのか、それとも歴史的な資産を見に来るのか、それとも京都に来たついでに時間があったので来たのか、そういった詳細な内容が知りたい。
また外国人観光客の３万円以上使われている内訳もどうなのか、食事なのか、それともお土産代なのか、交通費やレンタカー費用なのかを含めて内容も知りたい。それによって戦略も変わってくるのではないか。

事務局：
外国人調査について、初めて訪れた観光客に対しての来訪目的は別で調査しているので、クロス集計を進めていく。また購入品目などの詳細な分析も今後進めていきたい。

委員：
抹茶の購入ついては約１年前から急激に増えた。今までは北米とアジア圏が多かったがヨーロッパまで広がった。世界中で体に良い、精神的なリラックスが得られるということで抹茶がブームになっている。先程の日本経済新聞の記事については、抹茶ブームをうまく利用して転売をする人たちがたくさんいる。今はどこも売り切れの状態が続いているので減ってはきているが、去年 10～11 月頃から、消費単価にも響いてくるかと思うが１人で３～５万円分あるだけほしいというお客様がたくさんお見えになった。これは良くないということで、お茶業界では販売の個数制限をかけている。これから怖いのは、抹茶や日常の嗜好品に限っていうと現在一番茶で 2.7 倍、二番茶で３倍強の価格をつけられて入札をしている。これが７月にすでに値上げの声明を発表されているところもある。８～９月には全て出てくると思う。一昨年からすると３～４倍の価格をつけるような抹茶が販売できるのかどうか。宇治の地域で限っていうと、上級な抹茶が主流であったが、それがどんどん値段を合わせるために今の二番茶や秋整といったところで値段を合わせていく。そうした時に、プレミアムのブランドであった宇治茶が、このまま維持できるのかどうか、私個人的には非常に恐ろしいと感じている。日本の中には、鹿児島県にも産地があり、静岡県はいろいろな報道がされているように、これから静岡県をあげて抹茶に転作するという声明が発表されている。ブランドの価値を高める目的で行われている。宇治という地域の観光にとって、宇治茶というものが大きなウエイトを占めると思うので、そのあたりの動向は今後宇治市で細かくとっていただきたい。実際に、お土産物として何が売れているのかという詳細なところまで分析して

いただけるとありがたい。

委員長：
ブランドコントロールというテーマを、観光と産業との連携になるかと思う。今回の計画では大きな課題になってくる。他にいかがか。

委員：
宿泊について、満足度が何％と出ているが宿泊数はどうなっているのか。宇治市に観光に訪れて泊まる人、京都に行っても宇治市に泊まる人もいるかもしれないので数がわからないと、何％というのはどのように思われているのかあまりピンとこない。ホテルや旅館等に宇治市で宿泊される数は、捉えられているのか伺いたい。

事務局：
旅館などについては聞き取り調査をこれまで行っていない。ご指摘をいただいたので今後そういった聞き取りができるのかどうか検討させていただく。

委員：
宿泊していただくことによって夜の時間帯までの消費が増えることは確実なので、そのあたりも実態として掴んでおくことが必要ではないか。

委員：
観光という産業は、税金も含めて宇治市にプラスになっていく側面と、将来的に宇治市への定住につながり宇治市の人口が減らないで維持できるようなブランドへつながるのではないかと思っている。宇治市もそのあたりを含めて展開ができればと思う。定住の方へのアプローチになるような観光資源ということも考えていただければ良いのではないか。
お茶に関して玉露の時のように、今後お茶がブレイクスルーするような新しいお茶が出る可能性はあるのか。時代によって飲み方も変わり品質も変わってきている。大正の頃の玉露のこともあれば、覆い茶という宇治の独特のものもあれば、今後宇治市でブレイクスルーするようなお茶はあり得るのか。

委員：
お茶の葉ということに関しては、私は門外であるが、玉露や煎茶が現状ではどんどんと減っている。抹茶がブームになって玉露を生産するよりも、抹茶に移っていっているため取れる量が少ない。市場から考え、全体量が少ないと値段が上がる。本来は、二番茶も取らないほうが良い。秋整といわれるものも取らないでおくと、来年のお茶に対して茶の木が弱らないので非常に良いが、取って市場に出すと何万円との値段がついて売れるのでやっている人もいるだろう。品種改良があって、これから飲み方が変わるかもしれないが、抹茶というものに取って代わるようなものが出るのかとなると、おそらく難しいような気がする。

委員：
碾茶に移れということをいっていますね。

委員：
鹿児島県も移っている。静岡県も県をあげて行っているので、他府県との競争というところで宇治茶としてブランドを守れるのかどうか今後考えていくべきところである。

委員：
耕作地は減っているのか。

委員：
耕作地は減っている。

委員：
どういった舵取りをするかである。

委員：
10 年くらいかけてゆっくりと値段が上がってくれると良かったが、一気に 2 年間で上がった。ほぼ同じ原価で茶農家の人たちは 3 倍くらいの値段で売れる。去年 1 万円だったものが 3 万円程度の値段がついている。

委員：
良い形で宇治茶として提供できるようなブランド力の維持が必要である。

委員：
良いものをきちんとした価格で販売していくことが一番大事なことではないか。非常に難しいことだが、ブランドを保ちながら低価格競争に向かわないことが今後の宇治茶に関して、全体を上げていくということでは非常に大事なことである。

委員：
今まで以上に高い値段で、質が悪くてもこれくらいの値段で買ってもらえるということが行き渡ってしまうと、質を上げる努力をしないことにつながりかねない心配がある。質を保っていくということが、値段が上がっている状況の中で非常に難しい印象を受けている。それを今後どうしていくのかということが大きな課題である。

委員：
観光客は高くても良いものを求めているのではないのか。

委員：

高くても良いものであるという説明をどう販売の時点でお客様に伝えるのかということが非常に大事になる。商品だけの価値だけでなく、それを販売する販売員の質も上げていかないといけない。売れるから売るということだけではない。

委員：
宇治市に来る前にそういったアピールが必要で、ここに来れば高くても良いものがあるという状況にすべきである。

委員：
特農家といわれる人たちは、二番茶も秋整もしない。来年の新茶に向けて一生懸命、茶の木を育てることをされている。二極化しているような気がしている。

委員長：
非常に重要な課題のご意見をいただいた。これについては、次の中期アクションプランの方向性にも関わってくる。

委員：
一点よろしいか。残念な点について、外国人も日本人も共通しているのは、圧倒的にトイレ・ゴミ箱に関するものが多い。トイレとゴミを同じ項目で調査しているが個々にすべきなのではないか。特に、ゴミに関しては京都市内でも非常に問題になっており、嵐山でも問題になっている。当商店街でもゴミ箱をどうしようとなって基本的に設置しない方向で行っている。今後、中宇治全体エリアを考えると非常に大きな問題である。トイレとゴミは、詳細について知っておきたいので個々に調査していただければと思う。

事務局：
今回のアンケート結果については、トイレとゴミ箱を別々に出すことはできない。個別の意見として自由回答では、トイレが残念であったというご意見が多かった。今後の調査については、トイレとゴミを分けて調査する形で検討していきたい。
また、市もトイレとゴミは課題の一つと認識している。本来、分ければ良かった。6月の補正の中でも西詰のトイレには改修の予算を計上して今年度中に使いやすく、きれいな形にしていこうと考えている。

委員：
消費額については一人あたりの消費額ということでよろしいか。グループで来られて消費した額ではないということでよろしいか。私も正直、宇治市で3万円とは一体何に使ったのかと思った。他の委員もおっしゃっていたが、やはり宿泊で京都市内のように富裕層向けのようなところがないように思う。そういった中で、3万円以上消費するということは、何だろうと考えると、先程の日本経済新聞の記事の話で、お茶の転売目的で買いに来ているということは私もいろいろなところから聞いている。そういうこと

が実態で出ているのではないか。プレミアム化が進んでいるという分析も当たらないのではないか。そういうお客様は本当の観光客なのか。そこをよく見ていかないと、宇治市は観光消費が増えているということで笑顔になっていたら、それは違うのではないだろうかということを危惧している。
事務局も大変だと思うが、本日は結果報告だと思うが、もっとクロス集計が必要だと思うが、委員会に出す時にはもう少しスピードアップして分析結果が出た状況で会議に臨めないだろうか。我々も数字だけ見せられても、いろいろとご質問があったようにわからない。大変だと思うが、もう少しスピードアップしていただくか、会議の日程を遅らせるか、もう少し分析結果を基に会議すべきではないか。

事務局：
今後しっかりと分析をしていきたいと思う。外国人動向調査の 21 ページを見ていただくと、飲食した、飲食する予定であるという結果で、宇治茶や抹茶スイーツが非常に高い数値を示している。23 ページではお土産をどれくらい購入したというアンケートでは、前回のアンケート調査では煎茶や玉露やほうじ茶と抹茶も一括りで行っていた。前回の中でいうと 32%の方が買っていた。ところが抹茶が単独だけでも 64%の方が買っていただいているところで、抹茶の購入が非常に高い。抹茶に関わる飲食も非常に高かったということが見て取れる。そのあたりについては深いクロス集計をしながら、次回お示しさせていただく。

委員：
プレミアム化について、おそらくプレミアム化ができているから宇治という地域に来られるのだと思う。同じ抹茶でも交通の便もあるかと思うが城陽市や京田辺市では、そういったインバウンドの需要はない。特に、宇治市だけである。そこだけに固まって来られている。転売目的も何でも良いという話ではなく、宇治の抹茶がほしいということで来られるので、宇治のプレミアム化はある程度できているのではないかと思う。それが希釈されることが非常に今後怖い。

委員：
宇治茶がプレミアム化されているのはよくわかっている。それを全く否定しているわけではない。私のプレミアム化というのは、観光のお客様が富裕層化しているという意味でのプレミアム化である。商品に関しては、もちろんプレミアム化しているのでこういうことになっているのは存じ上げている。観光客は、量より質を求められている。消費額を上げていくために、富裕層のお客様が来ているというだけで直結するのは違うのではないかと申し上げさせていただいた。

委員長：
次の中期アクションプランの方向性とリンクして議論を進めさせていただければと思うがよろしいか。抹茶については、実際にはヒアリングをして実態的に売られている場面で本当はどうなのかというところを知りたいところ。アンケートではもうできない

のであれば、実際にヒアリング調査をして、それを補足するということも行っても良いのではないかと思う。
次のアクションプランの課題とも連携しながら、調査を深めていただければと思う。
事務局より中期アクションプランの方向性について説明をお願いしたい。

・中期アクションプランの方向性について

事務局より資料３について説明

委員長：
事務局より説明があった中期アクションプランの方向性についてご質問等があればお願いしたい。

委員：
気になっているのは、今回は中期ということだが前期アクションプランが令和５～７年で作られていて、まだ最終年度の途中であるがここととの関係はどのようになるのか。普通は、前期のプランで成果と課題があり、それを踏まえて中期をどうしていくのかということがあるかと思う。それはこの会議の中では扱わないのか。できれば前期のプランの中で動向調査も踏まえて、こういった課題があるので中期ではこのようにしていくという流れが良いかと思うが、そことの関係はどうなっているのか。
先程、各指標の達成状況の報告があったが、それが全て日本人への調査結果ということだが、これだけインバウンドが増えている中で、いろいろなことをインバウンドと日本人と分けて考える必要があるのではないか。例えば、交通状況に対する不満にしても、日本人の方は車で来られる方が大半であるが、外国人の方は公共交通機関での利用が多い。そのあたりの事情も違ってくる。また、リピーター率を上げていくという目標があるが、日本人を想定して上げていくということになっているかと思うので、インバウンドの方に対しても同じようにリピーター率を上げていくのか、より広くたくさんの国の方々に来ていただくように広げていくことを目的とするのか、そのあたり日本人とのインバウンドで変わってくるのではないか。分けられるところは分けていくのが良いのではないか。

事務局：
前期アクションプランの報告について、資料１の６で観光動向調査の調査比較でお示しさせていただいている。ここで受けた結果を中期アクションプランにどう反映させていくのかをこれから検討していきたいと考えている。
外国人と日本人の目標設定を分けることについても、貴重なご意見として今後検討していきたいと考えている。

委員長：
前期からの引継ぎは、本日のご意見やアンケート調査等を含めて整理をされて、次の計画に引き継いでいくという流れを作っていただけるという理解でよろしいか。

国内外に分けた目標設定は今すぐにできるかどうかも含めてご検討いただいたほうが良いかと思う。他にいかがか。

委員：
資料３の５の「③安全で快適に観光できる環境の整備」で、「令和６年の宇治市観光入込客数は、過去最高の約 614 万人」と記載があるが、このうち日本人と外国人がそれぞれ何人なのかどこかに記載はあるか。増えているとおっしゃっていたので参考までに教えていただきたい。

事務局：
こちらについては、日本人と外国人それぞれで出ておらず、合わせた数となっている。

委員：
先程、外国人が増えているとおっしゃっていたのは感覚的な話なのか。それとも何かしらの指標で確実に外国人が増えていることを見ているのか。

事務局：
市営茶室対鳳庵の令和６年度の利用者数の７割強がインバウンドの方であった。また、前年度から比較すると１割程増えてきている右肩上がりの状況である。そういったところからもインバウンドの方が増えているということで認識している。

委員長：
おそらく京都府の統計で、地域別に日本人と外国人の数が出ているのではないかと思う。あくまでマクロのため市に落とし込めない数字だとは思う。一番分析が難しいところである。国の統計指標と府県の統計指標と市町村の統計指標のインバウンドの数字を合わせていくことは一番難しいところなので、一度検討されても良いのではないか。外国人と日本人との比率についていかがか。

委員：
実は、私どものところも統計をとっていない。京都府に委託しており、まだその数値の分析結果が出ていない。先程、スピードと申したが、なかなかそういったところができていないのが現状なので、肌感覚での話でしかできない。

委員長：
消費単価も国としては、鉄道でいくらとか数字があるので、全国的なものを参考しながら宇治市はどうなのかという比較もできるかと思う。そのあたりも分析してはいかがか。他にいかがか。

委員：
消費額について、私が得られる情報の中で地域経済分析システムという京都府の宇治

市における総支出で、宇治市の中でどれだけのサービスやものが購入されたのかといった統計情報が国勢調査から取られている。2018 年で 6,800 億円くらいが宇治市内で消費されていることが統計上明らかになっている。今回、614 万人という過去最高の観光入込客数になっているが、宇治市観光振興計画で 1 人あたりの観光消費額がだいたい 6,291 円である。614 万人が 6,291 円使うと 386 億円くらいとなる。すなわち宇治市内における 614 万人の観光消費額を足し合わせると、386 億円が宇治市内の観光で消費されていることになる。これはだいたい全体の 5 %くらいかと思う。そういうところの中を今後どう増やしていくのか。そういうデータの基で、この価値が伸びていると思うが、先程の宇治茶の転売の話があったが、できるだけ宇治市内に留める。ストレートに申し上げると、宇治市外の人がそれで儲けるのではなく、宇治市内の主体の方が上がった利益を宇治市内で取り込めるようなシステムが大事ではないか。私も答えといったものは持っていないが、せっかく抹茶の価格が上がってチャンスがあるのであれば、それは宇治市内に還元されるというしくみが大事である。

もう一つは、公設的やインクルーシブといった市民全体に観光で伸びた地域内の価値を還元できるような取組は大事かと思う。

熊本県で台湾の半導体工場ができるということで調査に伺った。ものすごく大きな工場で 1 兆円の投資がされている。そこで地元市町村が建設に係る作業員の喫煙で、たばこ税だけで年間 2 億円の増収があった。その 2 億円の増収で小中学校の給食を無料にする取組を行っている。そのように地域に何か産業的な伸びがあるのであれば、その利益を市民に還元するようなアイデアがあればと思う。計画の中にどこまで踏み込むことができるのかということもあるが、還元もあっても良いのではないかと感じた。

委員長：

貴重なご意見でした。他にいかがか。

委員：

観光振興計画において、安全な観光地づくりの推進という部分で、我々の商店街も考えているのだが、これだけインバウンドも含めて観光客が宇治市に流入している。そのような中で、もし大きな災害が起こった時に、誰がどのようにして誘導して、どのように逃がすのかということを全く考えられていない。先日、宇治市の危機管理室に話をしに行った。地域住民の防災に関してハザードマップ等で考えられているが、観光客を地域住民と同じ場所に避難するというのは想定されていない。その場合どうするのかということを、ある程度の方針を作って動かないといけない。今後、南海トラフも 80%と国が言っている以上、それは考えておかなければならない。アクションプランの中にも入れておくべきではないか。

委員長：

災害時の観光客対策を率先して取り組んでも良いのではないか。観光庁ではいくつかの方針は出ていると思う。それらを含めて整理をしていただければどうか。

委員：

萬福寺は国宝であるために、イベントを行うにしても宇治市やいろいろな関係各所への届出が必要となる。萬福寺の五ケ庄三番割 34 という地番は全て史跡に指定されている。駐車場も 34 番地になっており、駐車場に物を置くのにも宇治市に許可が必要なため大変不便な思いをしている。萬福寺は煎茶の宗ということで、先程からお話を伺っておると抹茶が伸びているということで、萬福寺に抹茶の何かを置かせてもらえればと思っている。また萬福寺の駐車場のあたりにも店でも構えていただければと思うが、それをするにも宇治市にお願いしないといけない。一昨年頃から、駐車場をタイムズに入ってもらうことになり、タイムズも萬福寺の駐車場が様変わりすることに際し、何度も宇治市に足を運んでいた。こんなに高いハードルがあったのですねということも言われていた。そのあたりをもう少し和らげていただければと思う。萬福寺は国宝であるとおっしゃっていただいているが、訪れる方も増えてはきており、コロナ禍以上となっている。普茶料理に関してもコロナ前には戻ってきている。しかし、たくさんの方が来られるにあたって、どうしても不平不満も聞こえてきている。萬福寺の場合は京阪黄檗駅、ＪＲ黄檗駅からの動線がしっかりとわからないということですが、看板や、大きなマップなども作っていただければと思う。もっと大きな形で京阪宇治駅やＪＲ宇治駅にも萬福寺までの案内表示もしていただきたい。

委員：

資料 3 で中期アクションプランを今後策定していく中で、動向調査の結果等を見ていると、前期アクションプランを行った結果がこの目標度合いに達したということなのか。私が感じたのは、アクションプラン自体がぼんやりしていると感じた。例えば、目標数値はどのように決めているのかといった疑問もある。目標に達せずに減少しているというのは、取組自体が不十分だったのか、プラン自体が悪かったのかという検証はどこでされているのか。また今後どうされていくのかということを考えていた。

先程のトイレの満足度が低いということについては、今後重点的取組の中のひとつになるので、これはあくまで整備だけなのか。整備というのは改修であると思っていたが、改修をしてきれいになっても、すぐ汚れてしまうと不満度は高くなってしまうと感じている。そうなると清掃という部分も、今後アクションプランの中に具体的に入れていくのかといったことをこの場で発言して良いのか、その清掃が現状どうなっているのかについて知りたい。トイレはどの施設でも、どの鉄道業界でも満足度が低い。その声を基に改修をしていくがどうしてもすぐに汚れてしまう。そうなってくると清掃頻度を高めていくことで満足度が高まっていくが、高まったとしても絶対に一定数の数字というのは不満度を抱えている方たちはいらっしゃる。それを見越した上での目標設定をしないといけないのではないかと思うが、その数字の出し方をこの会議で決めるのか、それとも出し方というのがすでにあるのか。そのあたり今後ご指導いただけるとありがたい。

事務局：

現時点は、動向調査のまとめが終わったところである。スピード感をもってということ

でご指摘をいただいているとおり、分析をこれから進めていくことがひとつある。アクションプラン自体がどうだったのか、またどのように効果を発しているのかについても合わせて、クロス集計を踏まえて、実際にアクションプランがどのように機能していたのかということも、しっかり検証していく。
トイレについては、宇治橋の西詰にある夢浮橋広場のトイレは一日２回清掃している。宇治神社前の同じく２回清掃している。これもおっしゃっていただいているようにタイミングによっては汚れていると評価されたり、市役所にも電話が入ってくることもある。我々もどういったスタイルが望ましいのかについては、今後も検討しながら対応を深めていければと考えている。

委員：
いろいろなご意見をいただいていたが、トイレやゴミにしても色々としようとしてもお金が必要となってくる。そのお金をどうやって税金から出すのか。それはそれで入込客数が減るかもしれないが、京都市は宿泊税をとっている。宇治市で入込の方から何かもらえるものがないのか。今の宿泊数では、仮にとったとしても大したことはないと思うので、素人考えであるが、平等院と黄檗に来られた方にインバウンドの場合 1,000 円プラスでもらって、それで宇治市でトイレなどをきれいにしてもらうなど、一宗教法人なのでそういったことは難しいとは思うが。先程、委員長がおっしゃっていたように、エジプトでは外国人から入場料を高くとっているようなことを言われていたが、せめて宿泊施設があれば、そこから外国人から高くもらうことができると、それを財源にできるということもある。何をするにしても財源が必要となるので、そのあたりでもう少し外国人や観光客から出してもらえるような方法があればと思う。もちろん日本人の観光客にも喜んで出してもらえる方法があれば良いと思うが、どこで出してもらうのかと考えると、もらえるところが少ない気がする。いろいろとやることに対してはお金がかかるが、どこでどのようにとっていくのか考える必要があるかと思う。

委員長：
観光財源をどうするのかは日本全国でも課題になっているかと思う。税の問題についていかがか。

委員：
経済分析システムのデータでは 2024 年度の宇治市の宿泊日数別の総宿泊数を見ると、一泊客が 21,800 人、二泊もしくは三泊が 16,320 人、四泊以上が 2,600 人というデータがある。こういったデータに基づくならば、仮に 30,000～40,000 人くらいが宿泊するならば、宿泊税なり何らかの課金をしていくというのはありうるのではないか。いくつかの自治体や姫路城などで検討もされていたが、日本の現状ではなかなか外国人だけということは難しいところはある。そのあたりはここで一定議論していくのも方向性としては有りなのかもしれないと考えているところである。

委員長：

海外に行くと知らないうちに観光税がとられている。宿泊費に対して 10～15%ほどとられている。旅行会社を通すと見えないだけで結構払っている。グローバルスタンダードでは結構観光税をとっている。日本だけが非常にお人好しというか、そういうホスピタリティの高い国ではないかと思う。何らかの形で財源確保というのも課題として挙げておいても良いのではないか。他にいかがか。

委員：

結局、初めに出たアンケート結果もそうであるが、取り組んでいかなければいけないものがたくさんある。そのアンケート結果でも出ていたようにトイレについてもそうであるが、来ていただいた方への受け入れ体制をどのように作っていくのか。ソフトもハードの問題も宿泊施設についてもである。宇治市に来ていただいたお客様が自然とお金を落としていただける体制づくりは、先程もおっしゃっていたとおり宿泊施設であると思っている。そういったことも含めたハードとソフトについて受け入れ体制を進めていくべきである。道路も駐車場もそうで色々なところがあるかと思う。来てほしいという発信も良いが、来ていただいた方が来て良かったと思っていただくには、きっちり受け入れ体制ができていないと、来たけれどももう良いとなってしまう。そこをやはり事業者や行政と力を合わせてやっていき、宇治市全体の魅力度をアップしていくことが一番大事である。そういう意味で、中期アクションプランはこれからワーキングをしていくと思うが、安全のことはもちろん受け入れ体制についてこれから大事になってくるところである。

委員長：

皆様からご意見を頂戴したが、本日の資料を見ると相当皆様もストレスを感じながらご意見をおっしゃっておられるような雰囲気もあった。いくつかの貴重なご意見で課題が出たかと思う。特に抹茶の話が冒頭あり、これをどう観光と結び付けて消費単価を宇治市内にエネルギーに蓄積するのかというような議論もあった。

それらを含めて次回までにワーキングをして、９月の策定委員会までには骨子案が出来上がるというスケジュールの説明があった。相当に検討していかないといけない。当事者の方もおられて、その方々とも協議をしないと結果も出ない。おそらく 10 月までに方向性が出ないといけないと思うが、そのあたり事務局に頑張っていただき、できるだけ関係者の方のご意見やご意向も含めて把握をしていただき、委員の方々ともやり取りをしていただいた上で骨子を作っていただければと思う。

今後の中期計画は、むしろ課題を皆様で共有し合って、議論の場を作ったり、そういったところでの組織づくりをしっかりとして、次に来る最後の後期計画で花開くことが現実的なような気がする。すぐに観光税や社会還元といっても難しいので、方向性だけ出しておいて何か全体をうまく中期計画だけで完成するというイメージではなく、問題認識を常に共有しながら、皆様で協力しながら進めていく体制づくりを評価すべきなのではないかと感じている。それらを踏まえて、次回までに事務局で本日のご意見も含めてご検討いただけるとありがたい。

このようなまとめ方をさせていただいたが他にご意見はいかがか。大変だと思うが事

務局よろしくお願いしたい。引き続きまして次第９その他に移る。

９．その他

委員長：

何でも構わない。情報共有や宣伝なども含めて何かあればお願いしたい。なければこれで宇治市観光振興計画策定委員会を閉会とさせていただく。

１０．閉会

・脇坂部長より挨拶